

都道府県名

岡山県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	川上郡備中町立備中中学校（平成15年度）					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	9
生徒数	23	20	24	0	67	

研究の概要

1. 研究主題

「学ぶ意欲と基礎・基本の確実な定着をめざして」
～一人一人に応じた指導の工夫と改善をとおして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科（全ての教育活動で学力向上を目指したい。小規模校で教員数も少なく、全校で取り組むのが望ましいと考えたので）

(2) 年次ごとの計画

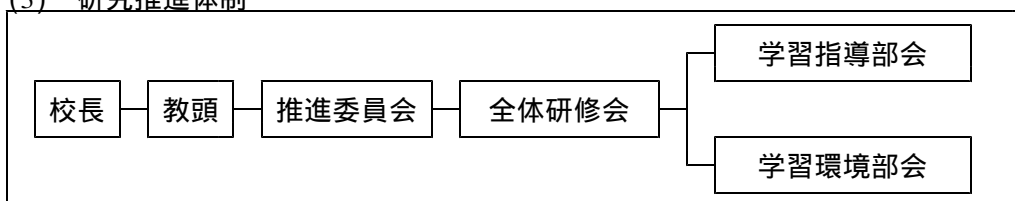
平成14年度	<p>テーマ 「学ぶ意欲と基礎・基本の確実な定着をめざして」 ～一人一人に応じた指導の工夫と改善をとおして～</p> <p>仮説 1 個に応じた指導計画・指導法・指導形態の工夫改善を図った学習を展開する。 2 教育活動全体をとおして学習環境の改善を図る。 上記の方策をとることにより、生徒の学ぶ意欲の向上と、基礎・基本の確実な定着を図れるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>1 授業の工夫改善 ・導入法の改善 ・評価の観点の絞り込み ・評価と指導の一体化 ・繰り返し学習 ・チームティーチングの工夫 ・選択教科のコース開設の工夫</p> <p>2 学習環境の整備 ・放課後および長期休業中の自主学習の工夫 ・朝読書 ・コンピュータの活用 ・学力テスト、学習実態調査の活用</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 「学ぶ意欲と基礎・基本の確実な定着をめざして」 ～一人一人に応じた指導の工夫と改善をとおして～</p> <p>仮説 前年度の成果と課題をふまえ、 1 より個に応じた指導計画・指導法・指導形態の工夫改善を全教科各単元の中で図る。 2 指導と評価の一体化の充実を図る。 上記の教育活動の展開により、生徒の学ぶ意欲の向上と基礎・基本の確実な定着を図れるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>前年度の取り組みに加え、</p> <p>1 授業の工夫改善 ・数学におけるTTによる習熟度別学習の工夫 ・英語におけるALTとの効果的なTTの工夫 ・数学科における補充コース・発展コースの開設</p>
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のつまずきの発見と補充の対策 ・各教科評価の観点を明記した年間指導計画作成 ・教師全員による授業公開 <p>2 学習環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に対する興味・関心を高める工夫（総合学習の国際理解の時間を利用した英会話） ・テスト週間の放課後を利用した5教科の質問教室開設 ・発表能力向上のための工夫（委員会の発表、1分間スピーチなど） ・教育相談の工夫（適宜相談開設）
--	---

平成16年度	<p>テーマ「学ぶ意欲と基礎・基本の確実な定着をめざして」 ～一人一人に応じた指導の工夫と改善をとおして～</p> <p>仮説 前年度までの教育活動を引き続き行うことで、生徒の学ぶ意欲の向上と、基礎・基本の確実な定着が図れるであろう。</p> <p>研究内容・方法 前年度の研究内容をより深める。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

実態	<p>平成13年度小中学校教育課程実施状況調査（ペーパーテスト調査）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果より、学校は好きであるが、勉強は嫌いである。学習の理解度は、全国平均と比べても「よく分かる」「だいたい分かる」生徒の割合が低い。家庭学習時間が、全国平均と比べてきわめて低い。という実態が明らかになった。 ・そこで、本校の特徴である「学校が好きである」生徒の割合を残したまま、勉強が「分かる」生徒の割合を高めたいと考えた。また、学習方法の工夫改善をとおして家庭学習の増加に努めた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・半年後のアンケート結果において、上記のように本校の特徴である「学校が好きである」をくずさず、勉強が「分かる」生徒の割合を高めることができた。また、学習方法の工夫改善をとおして家庭学習の時間を増加させることができた。 ・授業を行うにあたり、教師が導入法の工夫、観点を絞り込み、個に応じた支援、活動・素材・場の工夫などを意識して行うようになった。 ・繰り返し学習を各教科で工夫することで、生徒の学習事項の定着が図れた。 ・各教科評価の観点を入れた年間指導計画を作成し、評価と指導の一体化をめざす手だてができた。 ・小テスト、単元後テスト、自己評価アンケートなどで、生徒のつまずきの発見が容易になった。 ・数学のTTでは、単元後の習熟度別学習を行い、つまずいた生徒に効果が認められた。 ・アンケートの実態（家庭学習が全国平均と比べ少ない）より、課題の質と内容について意識するようになった。 ・選択数学の補充コース・発展コースにおいて、成果が認められた。 ・放課後5教科の質問教室を設定することで、自主的な学習や教え合う学習を促すことができた。

2. 今後の課題

課題

- ・基礎・基本の定着に向けた具体的な取り組みを、各教科あらゆる単元ですらに工夫改善していく必要がある。
 - ・各教科の「評価と指導の一体化」の工夫。
 - ・各教科の「個に応じた支援」の工夫。
 - ・チームティーチング授業の工夫。(習熟度別学習等)
 - ・学力の客観的実態評価。
- 等を今後より研究を深めていきたい。

学力把握のための学校としての取組

- 平成13年度小中学校教育課程実施状況調査(ペーパーテスト調査)
(平成14年7月3学年)
 - 平成13年度小中学校教育課程実施状況調査(質問紙調査)
(平成14年7月3学年)
 - 平成13年度小中学校教育課程実施状況調査(ペーパーテスト調査)
(平成15年2月全学年)
 - 平成13年度小中学校教育課程実施状況調査(質問紙調査)
(平成15年2月全学年)
 - 県学力調査実施
(平成16年1月2学年)
 - 全国学力調査CRTの実施
(平成16年2月全学年)
 - 平成13年度小中学校教育課程実施状況調査(ペーパーテスト調査)
(平成16年3月2学年)
 - 平成13年度小中学校教育課程実施状況調査(質問紙調査)
(平成16年3月全学年)
 - 全国学力調査CRTの実施
(平成16年7月全学年)
 - 平成13年度小中学校教育課程実施状況調査(ペーパーテスト調査)
(平成17年3月2学年)
 - 平成13年度小中学校教育課程実施状況調査(質問紙調査)
(平成17年3月全学年)
- その他、本校独自の学習時間調査、読書数調査など

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

本年度、ホームページ開設予定
平成16年10月22日研究発表会開催

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無